

# 宮城県の観光振興に向けた 施策の方向性

～第4期みやぎ観光戦略プラン～

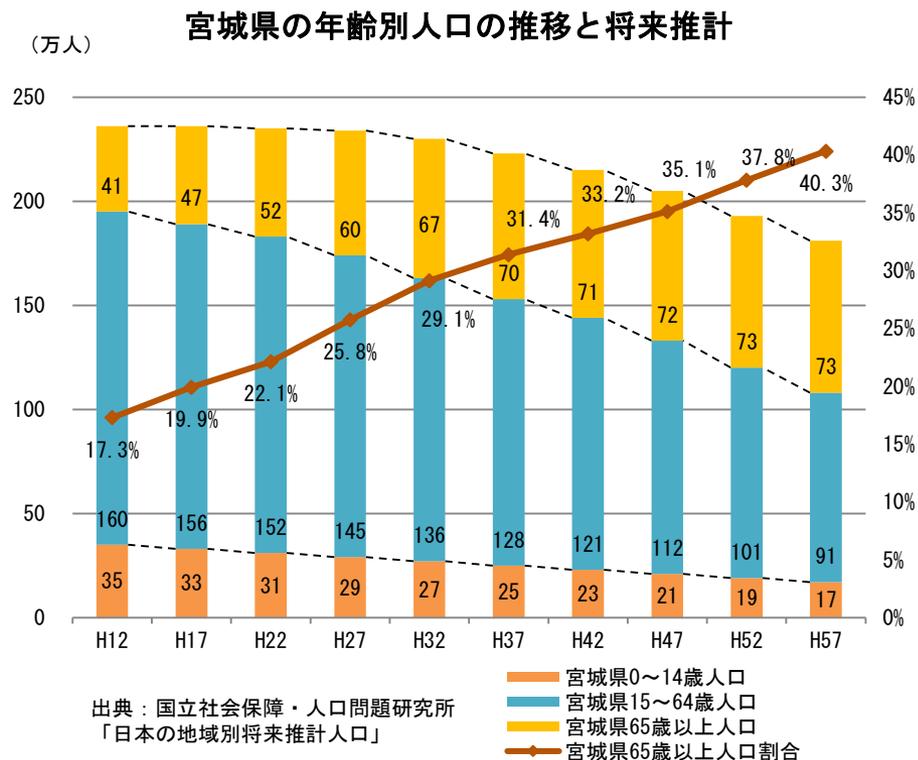
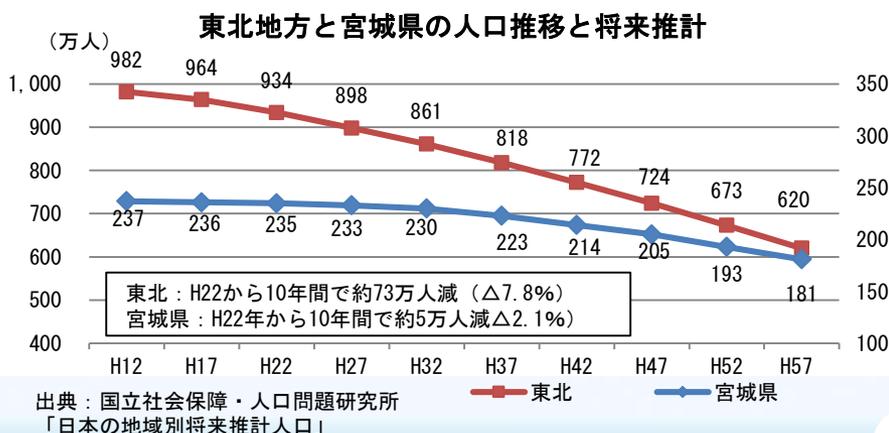
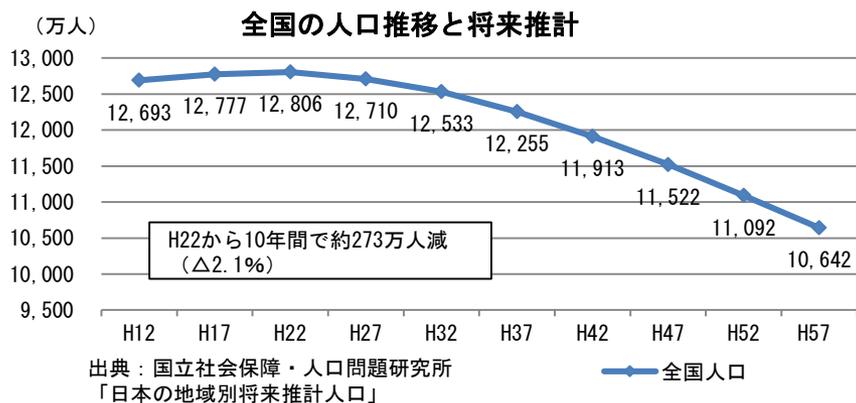
平成30年10月31日

第1回宮城県観光振興財源検討会議



# 観光を取り巻く背景 ～人口の減少・高齢化の本格化～

- 我が国の人口は、平成22年をピークとして減少に転じ、その10年後の平成32年には約273万人減（△2.1%）の1億2,533万人まで減少すると予測されており、同じく平成32年に東北地方は約73万人減（△7.8%）と全国の減少率を上回る減少局面にある。
- 急激な少子高齢化の進展に伴う労働人口の減少や消費の縮小等により、経済全体の規模が縮小していくことが懸念されることから、これらの動向を踏まえると、地域経済の活性化を図るには、国内観光の振興を図るだけでなく、海外との観光交流の推進による交流人口の拡大が不可欠である。



# 宮城県のこれまでの観光の取り組み

- 宮城県は「宮城の将来ビジョン」を策定し、「富県共創！活力とやすらぎの邦づくり」を基本理念として県政を推進する中で、観光の果たす役割が極めて重要であるという認識に立って、平成18年12月に「みやぎ観光戦略プラン」、平成23年3月には「第2期みやぎ観光戦略プラン」を策定した。
- その後に発生した東日本大震災により、「宮城県震災復興計画」を策定し、その中で復興のポイントの一つに「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」を掲げており、平成26年3月に「第3期みやぎ観光戦略プラン」を策定し、観光の復興に向けた取組を推進してきたところである。

## みやぎ観光戦略プランによる観光振興施策への取組

第1期	第2期	第3期
平成19年度から22年度	平成23年度から25年度	平成26年度から29年度
「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」を目指して	地域が潤う、住んでよし、訪れてよしの感動の「観光王国みやぎ」の実現を目指して	みやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍へ
<u>3つの戦略プロジェクト</u>	<u>5つの戦略プロジェクト</u>	<u>5つの取組の方向性</u>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 みやぎの魅力創出プロジェクト</li> <li>2 みやぎの情報発信・誘客プロジェクト</li> <li>3 みやぎの連携・組織づくりプロジェクト</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 みやぎの魅力向上プロジェクト</li> <li>2 広域観光充実・域内流動促進プロジェクト</li> <li>3 インバウンド強化プロジェクト</li> <li>4 関東以西からの誘客強化プロジェクト</li> <li>5 アクティブ・シニア等の受入態勢充実プロジェクト</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客</li> <li>2 外国人観光客の回復</li> <li>3 LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実</li> <li>4 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化</li> <li>5 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充</li> </ol>



# 第4期みやぎ観光戦略プラン

## 計画の位置づけ

- ・「宮城の将来ビジョン」及び「宮城県震災復興計画」の分野別計画
- ・「みやぎ観光創造県民条例」に定める観光振興に関する基本計画（行動計画）

## 計画期間

平成30年度から平成32年度まで

## みやぎの観光の現状と課題

- 沿岸部の観光客の回復の遅れ
- 東北地方の外国人宿泊者の伸び悩み
- 東北地方の国内観光旅行者の回復の遅れ
- 観光消費額の低迷

## 計画の基本理念

観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ

数値目標	基準値 (平成28年)	実績値 (平成29年)	目標値 (平成32年)
観光客入込数	6,084万人	6,230万人	7,000万人
うち沿岸部(石巻・気仙沼地域)の観光客入込数	552万人	645万人	805万人
宿泊観光客数	922万人泊	953万人	1,000万人泊
うち沿岸部(石巻・気仙沼地域)の宿泊観光客数	67万人泊	79万人	75万人泊
外国人観光客宿泊者数	17.5万人泊	25.2万人	50万人泊
観光消費額	3,044億円	3,530億円	4,000億円



# 観光消費額の経済波及効果

## 観光消費額

観光客が1年間に県内で消費した  
交通費・宿泊費・飲食費・みやげ代  
などの観光による消費額総額

## 直接効果

経済波及効果 4,000億円

雇用効果 38,738人

## 第一次波及効果

経済波及効果 2,906億円

雇用効果 21,891人

## 第二次波及効果

経済波及効果 1,562億円

雇用効果 12,584人

第4期みやぎ観光戦略プラン

観光消費額

平成32年目標 4,000億円



H23総務省  
産業連関表を  
用いて算出

総合経済波及効果 8,468億円

雇用効果 73,213人



# 3年後に目指す本県観光の姿

## 日本・世界の中での東北の姿

### 東北のゲートウェイとして国内外から多くの観光客が訪れています。

- 仙台空港民営化により国内線・国際線の直行便が増加し、東北新幹線は各種取組により増発され、首都圏及び函館等からの仙台駅利用者が増加しています。
- 仙台空港及び仙台駅を拠点に、本県が東北地方の玄関口の役割を増し、東北各県等との連携の下に、国内外の多くの観光客が本県を起点として東北地方の観光地を周遊しています。
- 『日本の奥の院 東北探訪ルート』など東北の新たな周遊ルートが確立され、東北地方がゴールデンルートに続く魅力のある新たな観光ルートとして認知されています。

## 東北の中でのみやぎの姿

### 宮城県に過去最高の観光客入込数が訪れており、関係者間の連携の好循環により観光産業が経済を力強く牽引しています。（観光客入込数7,000万人、宿泊観光客数1,000万人泊、観光消費額4,000億円）

- 県内の各地域でDMOが設立され、多様な関係者が連携し、新たな観光地域づくりが進んでいます。
- 産業間・地域間・関係者間で培われた連携の好循環が確立され、観光産業が更に発展しています。
- 県内外から多くの観光客が訪れることにより交流人口が増え、その観光消費がもたらす経済効果が地域経済を牽引する役割を果たしています。

### 宮城県に過去最高の外国人観光客宿泊者数が訪れています。（最大目標50万人泊）

- 主要ターゲットである東アジア市場（台湾・中国・韓国・香港）を中心として強力なプロモーションを展開し、かつ、海外における根強い風評が払拭され、これまでにない高い水準で外国人観光客が増加しています。

## みやぎの沿岸部の姿

### 沿岸部の観光客入込数が震災前の水準まで回復し、にぎわいが創出されています。

（石巻・気仙沼地域合わせて805万人・H22比100%）

- 復興まちづくりの進展に合わせた魅力ある観光地づくりにより、沿岸部への観光客が回復し、にぎわいが創出されています。



# 4つの観光戦略プロジェクトと具体的な取組

## 戦略プロジェクト1

### 東北が一体となった広域観光の充実と誘客プロモーション

#### (1) 東北の広域観光周遊ルートの確立と観光資源の磨き上げ

- 「日本の奥の院 東北探訪ルート」などの広域観光ルートの確立
- 圏域間の連携による広域観光の充実
- 自然・文化・歴史など東北ならではの多様な観光資源の磨き上げ

#### (2) 東北の魅力を伝える一体的な誘客プロモーション

- 東北が一体となった誘客プロモーション
- 海外・中部以西等に対して冬季観光など東北の多彩な魅力をPR
- 多様なメディアや媒体を活用した正確な情報発信

#### (3) 仙台空港等の活用や二次交通の充実による東北の周遊促進

- 仙台空港を活用した誘客促進及びLCC等の航空路線の拡大
- 二次交通等の充実とクルーズ船の誘致

## 戦略プロジェクト2

### 観光産業の連携強化と成長促進

#### (1) DMO等の形成による魅力ある観光地域づくり

- 仙台・松島復興観光拠点都市圏や県内に設立されたDMO等による魅力ある観光地域づくり
- ニューツーリズムや体験型観光など新たな観光コンテンツづくり
- 農林水産業などの関連産業との連携による新たな観光の魅力づくり
- 産学官の連携強化などによる観光産業に寄与する人材の育成等

#### (2) 観光産業の成長に向けた基盤強化

- マーケティングの活用推進による新たな旅行ニーズへの対応
- 観光事業者の経営・サービスの改善による「おもてなし力」の向上
- 事業者間の連携による観光商品等の開発
- 観光資源の磨き上げ等による受入態勢の整備

## 戦略プロジェクト3

### 外国人観光客の誘客加速化

#### (1) 東アジア市場を中心とした誘客プロモーション

- 重点市場である東アジアを対象とした誘客プロモーション
- 欧米豪を対象とした誘客プロモーション
- 個人旅行（FIT）を対象とした誘客プロモーション

#### (2) 風評払拭のための正確かつ戦略的な情報発信等

- 風評を払拭する正確な情報提供
- ICT・SNSを活用した戦略的な情報発信

#### (3) 訪日外国人受入環境整備の推進

- 多言語案内表示や無料Wi-Fi整備の推進
- 訪日外国人の言語・文化の理解促進と「おもてなし力」の向上
- 航空路線・二次交通等の交通網拡充とクルーズ船の誘致

## 戦略プロジェクト4

### 沿岸部にぎわい創出

#### (1) 魅力ある観光資源の磨き上げと正確な情報発信

- 沿岸部にぎわいを創出する誘客事業
- 体験型観光・復興ツーリズムの推進
- 沿岸部の風評を払拭する正確な情報発信

#### (2) 観光施設等の再建と受入態勢整備強化

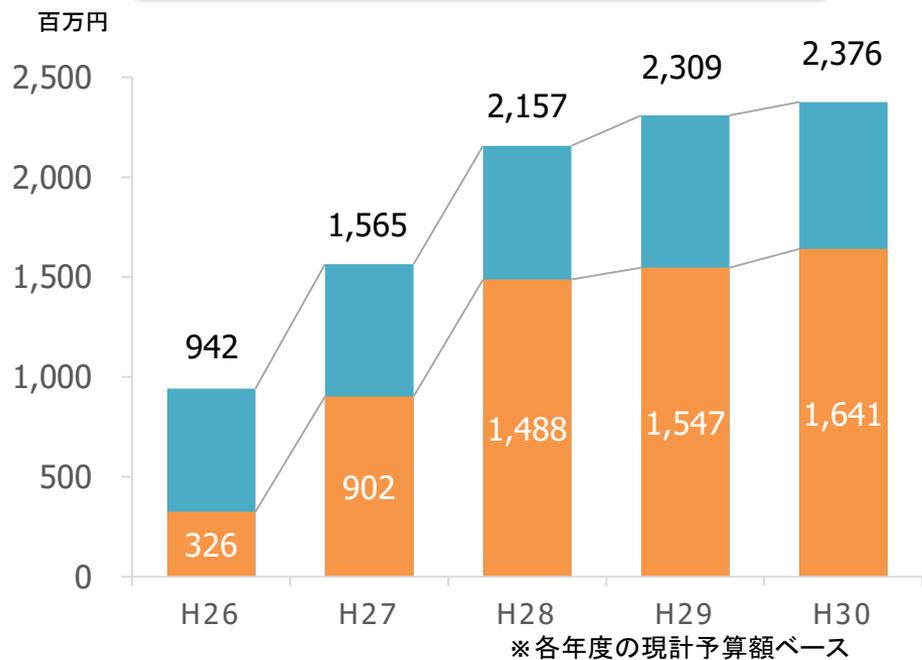
- 観光・宿泊施設等の再建・整備支援
- 沿岸部道路・観光案内板・歩道等の再整備



# 宮城県の観光関連予算

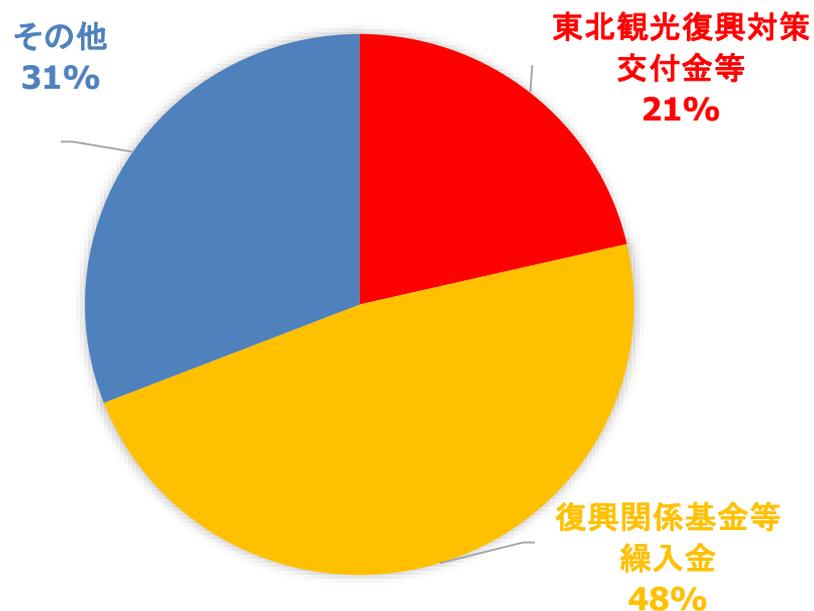
- 宮城県は、東日本大震災のために落ち込んだ観光客を回復させるため、東日本大震災後の県の観光関連予算は、東北観光復興対策交付金や復興関係基金を財源として年々増加の傾向にあり、平成30年度は当初予算額で、23億7,600万円となっている。
- 平成30年度観光関連予算のうち、東北観光復興対策交付金と復興関係基金等繰入金が全体の69%を占めている。

## 宮城県の観光関連予算の推移



■ 観光関連予算 ■ うち観光復興対策交付金 + 復興関係基金等繰入金

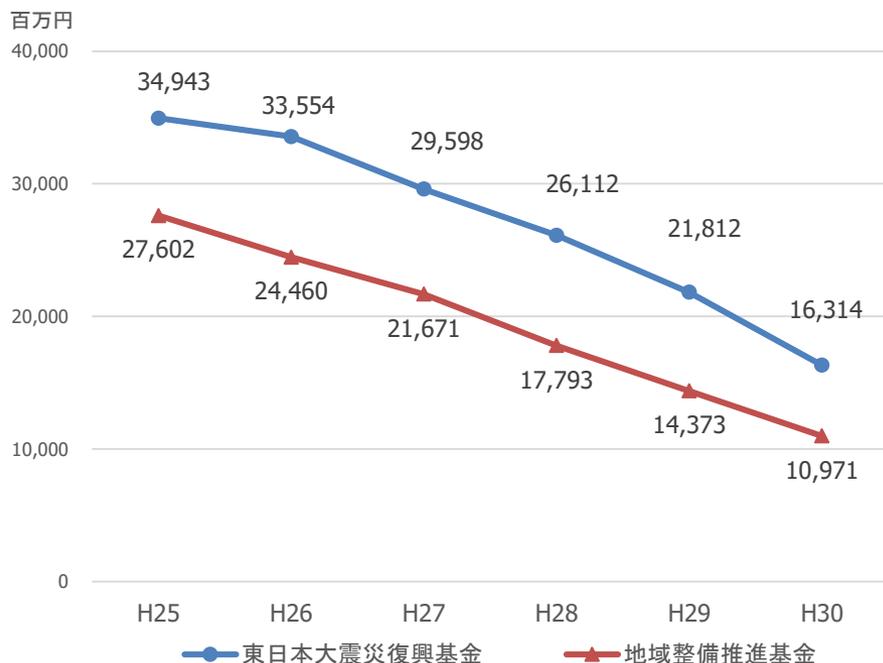
## 平成30年度観光関連予算の内訳 総額23億76百万円



# 復興関係基金及び東北観光復興対策交付金

- 宮城県の復興関係基金は、平成30年度の観光関連予算の48%を占めているところであるが、県の復興事業の進捗に伴い、残高は年々減少している。
- 東北観光復興対策交付金等は、平成30年度の観光関連予算の21%を占めているところであるが、政府に対して継続は要望しているものの、いずれ終了が見込まれる。

## 宮城県の復興関係基金残高の推移



## 東北観光復興対策交付金事業費

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度以降
交付決定額		497,393千円	460,987千円	442,849千円	延長を要望
(内訳)	観光復興促進調査事業	4,000千円	72,600千円	42,300千円	
	地域取組体制構築	11,500千円	101,600千円	45,320千円	
	プロモーション強化事業	261,819千円	165,688千円	196,408千円	
	受入環境整備事業	178,574千円	50,949千円	42,625千円	
	滞在コンテンツ充実・強化事業	41,500千円	70,150千円	168,196千円	

